

氏名： 三輪 建二 (MIWA Kenji)
 所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
 学位： 1983.3.31 教育学修士 東京大学
 1993.3.17 博士(教育学) 東京大学
 職名： 教授
 専門分野： 生涯学習論、成人教育学、社会教育学、組織学習論、教師教育論、専門職大学院論
 URL： <http://lw.cc.ocha.ac.jp/qube.li.ocha.ac.jp/hss/educi/miwa/>
 E-mail： miwa.kenji@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

成人教育／生涯学習／社会教育／社会人大学院生／省察
 adult education / lifelong learning / social education / postgraduate course mature student / reflection

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・三輪建二 (2007) 「学生・院生が学習支援者として力量形成を形成するプログラム：演習と卒論指導の事例をふまえて」『お茶の水女子大学生涯学習実践研究』No.5, pp.1-8.
- ・D・ショーン著、柳沢昌一・三輪建二監訳 (2007) 『省察的实践とは何か』鳳書房、440 頁.
- ・三輪建二 (2008) 「(解説) 校種を越える教師・保育者の協働：省察的实践論の立場から」お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校・中学校・子ども発達教育研究センター著 『「接続期」をつくる：幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働』東洋館出版社、pp.186-193.
- ・日本社会教育学会職員問題特別委員会 (委員長：三輪建二) (2008) 『知識基盤社会における社会教育の役割：議論のまとめ』16 頁.
- ・日本社会教育学会プロジェクト研究ワーキンググループ (代表：三輪建二) (2008) 『プロジェクト研究「専門職大学院構想と社会教育の役割」中間報告書』160 頁.

◆研究内容 / Research Pursuits

2007 年度は附属中学校長の仕事の最終年度であったが、この仕事とは別に、生涯学習・成人教育・社会教育の専門分野において以下の研究を行った。

まず、社会人大学院生の入学に伴って生じる、大学院生の実践・実務経験と大学院の学問知の間の格差とその是正について、グローバル COE の中での研究としてまとめた。

第二は、学部から大学院までの学生・院生の学びの組織化という観点から、先輩が後輩の学習を支援するシステム (卒論チューター生徒など) を研究室内に創り、振り返りを行った。大学・大学院での学びを成人教育的に再検討する契機になった。

第三は実践者・実務家・専門職の力量形成論に関わり米国の組織心理学者ショーンの文献を翻訳、刊行した。

第四は、日本社会教育学会プロジェクト研究の代表として「専門職大学院と社会教育の役割」の研究をリードし、教職大学院と並立しうるコミュニティ学習支援専門職大学院について、中間報告書を作成した。

第五は、日本社会教育学会副会長、職員問題特別委員会委員長として、教育基本法改正に伴う社会教育法改正の議論をまとめ、『知識基盤社会における社会教育の役割：議論のまとめ』を公表した。

Till end of March 2008, I was a principal of the Junior High School attached to the Ochanomizu University. During this job, I still continued to research about adult and lifelong learning.

First with some postgraduate students, I studied about the relationship between 'practical knowledge' of mature students and 'scientific knowledge' by universities, as a research project in the Global COE program of our university.

Secondly I organized a system of a "cycle of practice and reflection" at our institute of lifelong learning; namely senior students help younger students and after helping they reflects on their facilitator roles.

Thirdly, I and Professor Yanagisawa (Fukui University) edited to translate of the book "The Reflective Practitioner" by Donald Schoen and published it in Japanese.

Fourthly, I, as a vice-president of the Japan Society for the Study of Adult and Continuing Education, gathered opinions about Revision of the Social Education Law etc. and published the opinion of our Society as "..."

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、生涯学習の実践者の中で特に社会人大学院生、現職者の学びと力量形成に注目し、実践の省察をキーワードにしつつ、彼らの実践記録を読みあった。実践知と学問知との統合について議論をした。

大学院では、当の社会人（女性）大学院生の大学院での学びについて、当初の参加動機、大学院で学びつつ感じていることを検討しあい、それをもとに、社会人大学院生向けのアンケート調査項目を作成した。

At my seminar for undergraduate course students, we discussed about the meaning of reflection, reflection on action, reflection in action (D.Schoen), and have read some protocols of professionals (nurses, teachers etc.).

At my seminar for postgraduate course mature students, we discussed about the needs, motivation of studying at postgraduate courses and then some new scales for research about postgraduate mature students.

◆研究計画

第一は、社会人大学院生のための大学院養成プログラムの検討である。グローバルCOEでの研究を進展させ、社会人大学院生（特に女性社会人大学院生）の実践知・職業経験知がより活かせる大学院プログラムについて継続的に研究を進めていきたい。

第二は、コミュニティ学習支援専門職大学院構想の発展である。第一の実践的研究の延長上に、生涯学習分野の専門職・現職者や社会教育関係者のための専門職大学院構想（コミュニティ学習支援専門職大学院構想）について、日本社会教育学会プロジェクト研究（2006年度～2008年度）の一環としてまとめ、お茶の水女子大学を始め他大学とのコラボレーションによる試行を進めたい。

第三は、大学における社会教育職員養成・研修の再検討である。日本社会教育学会職員問題特別委員会（委員長：三輪建二）でまとめた提言をもとに、文部科学省との交渉を継続的に進めると同時に、現実に即した職員養成と研修のあり方を試行し、プログラム案と評価のあり方を検討していきたい。

◆メッセージ

生涯学習・成人教育・社会教育を専門とする立場から、学部や大学院に進学する社会人大学院生の学びのあり方について関心をもって実践的研究を進めています。

さまざまなバリアを乗り越えて、晴れて社会人学生・社会人大学院生になった人々が、自らの人生経験・職業経験（実践知）を十分に活かしつつ、それらを、大学・大学院で提供される学問知と結び付けられるようなカリキュラム・プログラムを一緒に考えていきたいと思えます。